

商 況

販賣旬報 第 112 號 昭和 4 年 11 月 21 日

線材と釘及線

(1.) さしも旺盛を極めた黒板の輸入も内地生産の増加により本年は甚だしく輸入數量の減少を見、著しく其活躍の範圍を狭められた感がある爲、今や思惑者流の注目の焦點は一に線材の上に懸つて來る様に思はれる。線材の過去に於ける需給の變遷は次表の通りである。(單位噸以下同じ)

表、其 1

年次\區分	製鐵所	民間	内地生産計	輸入	總計
13	29,117	9,898	39,015	88,242	127,257
14	36,232	12,964	49,196	51,319	100,515
15	28,779	6,024	34,803	117,971	152,774
2	49,032	5,395	54,427	109,090	163,517
3	50,769	6,820	57,589	172,644	230,233

備考 1、製鐵業參考資料に據る、但し同資料による製鐵所の分は製釘材を除きたる數量なるを以て特に鋼材年報の數量(製釘材を含む)に據る。

2、線材の關稅は大正 15 年 3 月 29 日從價 18% と改正せらる(以前 15%)

3、震災免稅期間自大正 12 年 9 月 17 日至大正 13 年 3 月 31 日。

線材は化して釘及線となる、此兩者を除いては線材を語ることは出来ない、兩者の過去に於ける輸入は如何であつたらう。

表、其 2

年次\區分	鐵釘	螺旋釘	計	線 (鍍金セザルモノ)	電鍍線	計	合計
13	37,201	1,901	39,102	2,048	137,809	139,857	178,959
14	591	1,409	2,000	672	22,066	22,738	24,733
15	806	1,458	2,264	1,413	35,230	36,643	38,902
2	500	1,797	2,207	1,337	10,712	12,049	14,346
3	953	1,974	2,927	2,447	7,017	9,464	12,391

備考、製鐵業參考資料に據る、但し昭和 3 年は大藏省貿易月表に據る。

2、關稅改正。釘は大正 15 年 3 月 29 日 100 斤 2 圓 40

錢(以前 1 圓 90 錢)と改正。線は線材と同じ。

3、震災免稅は線材と同じ。

以上に掲げたる 2 個の表を見る上に於て考慮に入るべきことを擧ぐれば

a、大正 13 年は震災直後に異常の需要を惹起したることも事實ではあるが同時に 3 月盡日までは輸入免稅期なりし爲必要以上の輸入ありたること、即ち(表、其 1)の同年の輸入が次年よりも多量なることもさることながら特に顯著に表明せるは(表、其 2)の釘及線の 18 萬 9,000 噸と云ふ驚異的數字である、此反動として大正 14 年に於ける線材、製品共に輸入數量を著しく減少したることが其證左である。

b、大正 15 年は關稅改正のありたる年なりし爲輸入を刺戟して線材、製品共に増加した。

叙上の 2 表の結果を綜合すれば日本に於ける、釘及線の消費量の變遷を窺ふことが出来るであらう、即ち

區分\年次	大正 13 年	14 年	15 年	昭和 2 年	3 年
線材供給	127,257	100,515	152,774	163,517	230,233
釘、線ノ輸入	178,959	24,738	38,902	14,346	12,391
計	306,216	126,253	191,676	177,863	242,624
2 ケ年平均	215,734	158,465	184,770	210,243	

異常なる原因による錯誤の修正の爲 2 ケ年づきを平均して、需給の推移の跡を尋ねるに大正 13、14 の平均は震災の影響として除外し、後 3 回に亘る増加率は 14% と 10% となる。

或は昭和 2 年に於けるモラトリアム、或は復興建築の終息、或は本年に於ける緊縮と、直接間接之等の需給に影響を及ぼすべき原因が交錯するを以て僅々數年の歸結を以て將來を斷定するの危険を斥けるとしても、前述の趨勢より見て大體に於て本年の需要が 22 萬噸と 23 萬噸の間にあると見て大なる過誤なからんか。

然して製品の輸入を 1 萬 5,000 噸とする時は線材の重要として 21 萬噸内外を算ふことが出来る。

此假定を前提として釘及線の生産を眺めよう。

(2.) A 釘

表、其 3

地方別	區分	工場數	製釘機概數	生産能力(年)	現在線材消費數量(年)	備考
九州		1	不明	40,000	32,000	製釘機優秀にて舊式のもの2倍以上の能力を有す 製釘機臺數に比し能力餘きは舊式機械多きと小工場が細番物を製造するに依る
大阪		約30	810	46,000	38,000	
廣島名古屋其他		約10	不明	6,000	5,000	
東京方面		約7	170	12,000	8,500	
計		約50	約1,500	104,000	83,500	

製釘界の雄は九州に於ける安田製釘所である、殆んど日本に於ける半數に近き生産能力を有して居る。材料としては當所の製釘材のみに依つて居るので輸入線材とは關係を持たない。

之に反し大阪は大部分が輸入線材に依つのと小工場の集合である爲起伏常なく正に製釘界の惑星で且經濟的中心を形成して居る。

東京は大阪と事情を異にし販路も狭少にして其附近の需要を充たすに止まるを以て比較的靜謐を保つて居る。

B 線

表、其 4

地方別	區分	種類	工場數	能力(年)	現在線材消費數量(年)	備考
大阪		鍍線	12	85,000	55,000	鍍線 100,000 鐵線 75,000 鍍線 67,000 鐵線 53,500
		鐵線	主なるもの3 小工場多數	40,000	30,000	
東京		鍍線	1	15,000	12,000	消費數量
		鐵線	15	35,000	23,500	
計			約40	175,000	120,500	

殆んど釘と同様の状態に置かれ大阪は斷然東京側を壓倒し其販路も東京側に其近縣を委するのみにて朝鮮臺灣は勿論遠く北海道まで其手に収めて居る。

(表其3、其4にある能力は常識的のものであつて製品の大

小に依つて甚しく異なることは勿論である。

C、製品合計 (釘) 83,500 + (線) 120,500 = 204,000

此外、淺野小倉製鋼所の如く自己の生産する線材を以て直ちに製品の生産をなすもの及び道路用鐵筋其他雜用として若干の消費を加算する時は、21 萬噸内外の消費力あるものと推定せらる、即ち推定せられたる線材の需要數量と概ね一致するのである。

然し大阪の生産數量なるものは時の形勢により甚だしき消長あるを以て將來の需給關係の調査には主として此方面に充分の注意を要するものである。

(3.) 關東關西の消費量の比較、然ば線材の東西消費力の比較は如何、猶それより推して必要とする輸入數量は如何。

表、其 5

地方別	區分	釘	線	計	備考
東京		8,500	35,500	44,000	釘に廣島其他の 5,000 を含む
大阪		43,000	85,000	128,000	

以上は安田製釘所及淺野小倉を除外したものに於て關西方面は廣島、名古屋等を含有せしめたるものである。

市場に注入せらるる内地メーカーの製品と云へば極僅少なる神戸製鋼のそれを除いては製鐵所の線材である。當所の線材は概ね 2 萬噸位で、本年 10 月迄の實績に徴するに東西契約の比率に東京 60% 大阪、(名古屋を含む) 40% となる。結局、東西各輸入を要すべき數量は

東京 $44,000 - (20,000 \times 60\%) = 32,000$ 月平均 2,700 大阪 $128,000 - (20,000 \times 40\%) = 120,000$ 月平均 10,000

即ち昭和 3 年、4 年に於ては年約 15 萬噸内外の輸入あれば足るものと推定せらる。然るに昭和 3 年の輸入は 17 萬 2,644 噸、昭和 4 年 10 月迄の總計 12 萬 4,302 噸にて單に昭和 4 年として見れば恐るべき數字にあらざるも昨年に於ける過剩數量を考慮に入れる時は本年の不振も首肯し得るであらう。

(4.) 以上諸材料により昭和 5 年を卜するに、例の緊縮の聲により需要の減退は兎も角も、少くも需要の増加を望み得ざるものと見るが至當ならん。然も此秋及來年に亘り神戸製鋼、及淺野小倉製鋼も線材の増産の計畫あるやに聞くに於ては其輸入に就ては益々慎重の態度を必要とするのではあるまいか。

10 月中歐洲大陸市況一不振 9 月下旬棒鋼 5-9-3 を傳へて、之をドン底に歐洲に於ける鐵價暴落の趨

向も漸時恢復するであらうとの予測は再び裏切られて、喚起さるべく期待されてゐた需要は一向に起らず海外よりの注文は其後益々減少して、市中には全く注文を持たぬ輸出業者が簇出し、メーカーの注文獲得は一段と困難を増して、シアレーロア地方の工場には既に Idle Shift を餘儀なくされたものさへあることである。

此の状勢の下に相場は更に賣崩れて、凡ゆる方面より期待されてゐた國際鋼塊組合の存續確定も遂に大勢を阻止するに足らず、棒鋼の如きは立會毎に 1 志半乃至 2 志半を失つて下旬には 5-1-0 乃至 5-2-0 と大崩落を演ずるに至つた。

事實、或る論者は最近の暴落原因を買手の國際鋼塊組合の將來に對する危惧に歸し其の更改決定と共に市場に安定するであらうと見てゐたのであるが、9 月 25 日同組合の總會は其の期限を明年 3 月 31 日迄延長することを決議したに拘らず市場には何等の反應なく、反つて現在の生産額を維持することが不人氣を呼んで下押傾向は止まるべくもなく全製品總崩れの有様であつた。

是に依つて見ても市場が如何に生産制限を熟望してゐるかがはれるので最近に於ける不況の原因も要するに大陸に於ける生産額と需要の間に起つた不均衡に存するのであらうと觀察される、下に大陸諸國の昨年と本年に於ける 7 月迄の産額並輸出額を比較して見よう。(佛國の輸出額は 6 月迄とす)

		鋼塊生産額			鐵鋼輸出額		
		1928 年	1929 年	増加率	1928 年	1929 年	増減率
獨逸		8,960,000	9,629,800	8 %	2,745,900	3,223,700	15 % 増
佛國		5,300,700	5,534,900	5 %	2,428,700	2,127,900	12 % 増
白耳義		2,197,600	2,362,700	8 %	2,369,700	2,597,300	5 % 増
ルクセンブルグ		1,451,300	1,526,100	8 %			
合計		17,909,600	19,053,500	7 %	7,544,300	7,948,900	3 % 増

即ち生産額に於て 7 % 増加したに對し輸出に於ては僅かに 3 % の増加を見たるに過ぎないのみならず、生産額の大半を輸出に振り向ければならぬ佛、白、ルク諸國にする對海外需要の相對的減少は、確かに相場低落の一大原因であるであらう。

茲に於て國際鋼塊組合も遂に 29 日巴里に臨時會議を開き、1 割即ち毎月 34 萬噸の生産制限を可決して大勢挺回を策するに至つた、此の決定が將來に何の位の好果を齎すかは未だ到底知る由もないが 30 日の立會に於ては一般製品にはとりわけ相場の變動なく、只棒鋼に付てのみメーカーは一氣に 3 志を引上げて 5,4,0-5,5,0 を賣唱えたが買手は之に應ぜず、5,1,6-5,2,6 の範圍を主張し、實際には 5,2,0-5,2,6、で少量の取引を見たと過ぎない。要するに、其の影響は今後のことに屬するのであらうが、メーカーは此の決定が海外に知れ渡ると共に、市況は漸次好轉するであらうと期待してゐる。

半製品市場 英國よりの注文に一時賑つた市場も 10 月に入つて再び低落歩調を辿り立會毎に 1 志方を失つて、下旬には 4-12-0 と 5 月の高値よりすれば既に 16 志の値下りと見せ、當時の花形たりし名残も止めぬ落潮振りである。

製品市場 ブラフセル取引所平均相場下の如し。

	棒鋼	工形	山形(大)	鋼板(3/16")	ピレット(2")
9 月 25 日	5-9-3	5-1-6	5-5-6	6-5-3	4-17-3
10 月 2 日	5-7-0	-0-0	5-4-6	6-5-3	4-16-0
9 日	5-5-3	4-19-0	5-3-0	6-4-3	4-15-0
16 日	5-4-0	4-18-3	5-1-6	6-4-3	4-14-0
23 日	5-1-6	4-17-3	4-19-6	6-3-6	4-12-0
30 日	5-2-0	4-17-3	4-19-6	6-3-6	4-12-0

2、3 月渡先物決定値段

品名\區分	沖着値段	河岸着値段	希望	本所決定値段	備考
棒鋼	6-12-0	85.40	85	85	据置
小中型山形	6-10-0	84.43	84	84	3 圓下げ
大型山形	6-10-0	84.43	84	84	2 圓下げ
工形	6-9-0	83.96	84	84	"
溝形(吋寸法)	6-18-3	88.45	88	89	1 圓下げ

2、3 月渡先物協議會

11 月 9 日大阪平和俱樂部に於いて 2、3 月渡先物協議會を開く、買手側希望其の他、及び決定値段左表の如し。

爲替の市中相場は 1/0-1/8 見當であるが來年 2、3 月頃を目標とする先物のこ と故、金解禁實施後に適用さるべきものとして特に現

"(耗寸法)(100 ^m /m) 6-10-3	84.55	85	85	据置
(200 ^m /m) 6-10-9	84.80			
鋼板 4,5 耗	6-11-6	94.88	95	95 1圓下げ
" 3,2 耗	7-17-6	97.80	98	"
" 2,3 耗	8- 0-0	104.01	104	105 据置
" 1,6 耗	8- 2-0	104.98	105	106 "
線材	7- 7-0	87.22	87	87 3圓下げ
鉄力100封度	1- 0-5	10.83	10.80	10.90 10錢下げ
" 170 封度	1-18-4	20.23	20.20	20.40 20錢下げ
黑板 13 枚	13-11-6	162.37	162	162 3圓下げ

爲替 ½—⅓

送點近くの⅓—⅓を標準とすることにした。

棒鋼は輸入値段に於て2志高であるが、爲替高に相殺せられ据置となつた。

其の他に就ては外電安と爲替高と相重なりて前記の如き下値を示したが、内地市況の好きものに就ては特に据置とした。

11 月中旬線材、薄板、鉄力板、輸入速報

區分/品名	線材				薄板		鉄力板	
	B.W.G.No. 5	其他	計	上中旬計	0.7 耗以下	上中旬計	上中旬計	
神戸	1,513	47	1,560	4,234	2,418	2,726	955	1,339
大阪	—	103	103	482	459	1,577	52	102
横濱	1,195	164	1,359	2,065	1,011	1,500	2,737	3,341
計	2,708	314	3,022	6,781	3,883	5,803	3,744	4,782

備考 神戸、大阪、自 8 日至 16 日、横濱自 8 日至 17 日

東西市況——丸鋼逆轉 海外稍安定の報に依り一息ついたと思はれた丸鋼は其後一般に賣りあせりの爲め大口需要出る度に新安値に落ち込む形勢となつたので再び混亂状態となり其前途は殆ど逆踏すべからざる有様となつた。愈々金解禁に直面して其影響に對し硬軟様々の臆測が行はれるが、何にせよ全然無經驗の事柄ではあり、且經濟界全般に亘ることなので鐵鋼界としても氣迷ひの状態とならざるを得ず猶大口實需は大手筋に渡はれて市中を買拾ふ事がないので仲間取引は極端に閑散となり本年に於ける掉尾の需要期である前旬も市場は閑古鳥も啼かぬ閑寂さと云はれて居る。

東京市況

丸鋼。急轉直下恐怖時代を出現し、遂日落潮止まず何時底止するとも見ず、不安に驅られて居る。理窟から云へば喜ばれなければならぬ大口實需もこの新安値の材料となると寧ろ悩みの種であるも皮肉な現象である。特にエキストラ物はエキストラを無視して追々とベース値段に近づきつゝあるが此を以て見ても如何に前途に對し脅えて居るか々窺はれり。

角、平鋼。角は未だ品潤澤ならぬ爲丸鋼に押されてのナリ安以外大した不安も抱かれて居らぬが平は 3" 以下入荷豊富にて益々不味。

型鋼。歎きの的であつた中型山形は丸鋼等の崩落により今では寧ろ好感を以て迎へられると云ふ面白い場面となつた、日本鋼管の製品も、頻發する實需に引き當てられて市場は追々と品薄となり其内でも 65^m/m は西へ引かれて好轉を氣構へられて居る。大形及不等山不變、花形の溝形も 2×4, 2½×5 などと云ふ特殊なものを除けば凡そ此邊が峠かとも見られて居る、が近來 3×6 などまたも硬化を氣構えられて居るものもある。工形の軟調止まず目先も望み薄と云はれて居る。

鋼板。16×3×6, 32×5×10 はまだ高値を保つて居るが其他は日々に軟化し一時の姿は見るべくもない。特に 6.0 物の近日入荷品は相當安値を唱へられて居る模様である。

大阪市況

丸鋼。海外の引締りに大體大底を思はしめるも落潮の餘力侮り難く市況は引續き軟調を呈し大口鐵筋用に對しては Basa 82/83 見當を以て取引せられて居る模様である。

角、平鋼。僅かに遠方各地の注文に小口取引のみといふ閑散振りに特筆すべき材料もなく氣配は不味。

型鋼。山形鋼中形ものは幾分東京に比し高値を保ちしも 2,3 月渡先物値段の下放れに苦もなく 9 圓臺を割りて人氣作用の妙を現はし大型もの及不等邊共軟弱。工形鋼は春夏の候賣手に依つて作られた相場は秋冬に於て買手の左右

するところとなり商賣の面白さを明白に演出して居る。溝形鋼品物もなく高値も驚かず全く特種品扱を受けて居る、12" ものは急落した。

鋼版。3.2×4×8 は落潮 5×10 は依然拂底、4.5,6^m/m は落付き、8^m/m 以上は矢張り拂底して居る。4.5,6^m/m の外注到着品も大體消化された模様である。

線材。現今相場は出來値 88,9 圓所にて不安にかられ益々安値を見るであらうと云はれてゐる。

外國爲替市中相場

區分\月日	Nov. 9	11	12	13	14	15	16	18	19	20
日 英	1/11-1/16	"	"	"	"	"	1/11-1/16	1/10-1/12	1/10-0	1/10-1/12
日 米	48-5/8	"	"	"	"	"	48-1/16	48-1/16	48-3/4	48-1/16
日 佛	12.20	"	"	"	"	"	"	12.25	"	"

備考 日佛のみ正金建値。

東京大阪市中相場

{東京 11月19日
大阪 11月15日

丸	鋼		等邊山形鋼				鋼板		
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	
6 ^m /m	9.00	9.30	9×75×75	8.90	8.90	1.6 ^m /m×3'×6'	13.00	12.70	
9	8.60	8.50	9×130×130	10.10	9.20	1.6×4×8	12.30	11.80	
12	8.55	"	12×130×130	10.50	11.00	3.2×4×8	11.20	11.20	
19	8.45	8.45	15×150×150	"	10.20	3.2×5×10	13.20	13.00	
25	"	8.40	不等邊山形鋼				6.0×4×8	12.00	11.50
50	10.10	9.90	3/8" × 2' × 3'	9.50	9.20	6.0×5×10	"	12.50	
65	9.40	9.40	3/8" × 3 × 4	8.90	"	9.0×4×8	10.90	11.00	
			3/8" × 3 1/2 × 5	9.70	9.80	9.0×5×10	"	10.90	
角	鋼		3/8" × 4 × 6	9.60	9.40	薄鋼板(13枚)			
9 ^m /m	10.10	9.30	1/2" × 4 × 6	"	9.20	米	66	67	
12	9.90	"	溝形鋼				英	65	66.5
15	"	"	1/4" × 2' × 4'	14.50	13.00	八幡	"	"	
19	9.80	9.80	0.312 × 2 1/2 × 5	18.00	16.00	鋸力板			
38	10.30	9.20	3/8" × 3 × 6	12.30	13.00	米	{170lbs 100	23.30 13.50	22.50 12.50
			3/8" × 3 × 8	11.00	10.00	英	{170 100	21.50 11.80	21.00 11.80
平	鋼		3/8" × 3 1/2 × 10	10.60	10.30	八幡	{170 100	21.80 11.80	21.70 11.90
1/4" × 1 1/2"	9.10	8.90	3/8" × 3 1/2 × 12	10.80	9.70	線材			
1/4" × 2	"	"	工形鋼				No. 5#	93	89
1/4" × 3	9.40	9.40	1/4" × 3' × 6'	9.20	8.70				
1/4" × 4	10.00	9.80	3/8" × 6 × 12	10.50	10.00				
3/8" × 4	"	"	0.28 × 4 × 8	9.10	9.20				
1/2" × 4	"	"	0.35 × 5 × 12	10.50	10.50				
			0.36" × 5" × 10"	10.00	10.50				
等邊山形鋼									
m/m m/m m/m									
6 × 50 × 50	9.00	9.30							
6 × 65 × 65	9.10	10.00							

備考 單位 100 疋につき (置場渡値段)、但し薄板は1枚當り。線材は1疋當り。鋸力板は1箱當り。

昭和4年9月中民間棒鋼生産高

單位噸

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數
丸		1 3/16	11	2	172	4	33	6	17	2 5/8-3	73
鋼		7/8	3,315	2 1/4	31	其他	742	計	298	3 1/8-3 1/2	27
1/4"	84	1	4,994	2 1/2	78	角	29,162	平	鋼	3 5/8-4	53
5/16"	344	1 1/8	698	2 3/4	55	1"	83	鋼	鋼	4 1/4-5	10
3/8"	2,421	1 1/4	629	3	38	1 1/8"	2	其他	計	其他	16
7/16"	3	1 3/8	172	3 1/4	39	1 1/2"	95	計	鋼	計	645
1/2"	3,962	1 1/2	334	3 1/2	2	1 3/4"	28	鋼	鋼	鋼	
5/8"	22	1 5/8	232	3 3/4	12	1 7/8"	4	鋼	鋼	鋼	
3/4"	4,989	1 7/8	415	3 3/4	28	2"	69	鋼	鋼	鋼	
1 1/16"	16	2"	165	3 3/4	28	2 1/2"	159	鋼	鋼	鋼	
1 1/8"	5,125	3 3/4						總計	總計	總計	30,105

昭和4年10月當所製品揚地別發送高 單位噸

品名	揚地別 區分	阪神 地方	京濱 地方	當 所 渡	伊勢灣 東海道 地方	山陰 北陸 地方	内海沿 岸四國 地方	奥羽 地方	關門 九州 地方	北海道 樺太 地方	滿 關 東 州 地 方	鮮 支 那	臺 灣	其 他	合 計
鋼 材	官廳向	7,908	7,701	165	21	—	345	20	1,934	2,773	67	—	1,182	—	22,116
	民間向	24,915	18,451	7,653	1,670	—	—	292	471	628	1,031	—	73	—	55,184
	計	32,823	26,152	7,818	1,691	—	345	312	2,405	3,401	1,098	—	1,255	—	77,300
鋼片及鋼塊	264	757	1,854	—	—	494	—	4,483	—	—	—	—	—	7,852	
副 製 品	25	1,492	19,344	20	—	2,070	—	4,418	—	—	—	—	—	27,369	
合 計		33,112	28,401	29,016	1,711	—	2,909	312	11,306	3,401	1,098	—	1,255	—	112,521

販賣旬報 第113號 昭和4年12月1日

相場は何處まで下る (其1) 相場は何處まで下るか、それは恐らく目下の處最も興味ある問題であるだらう。何がさて、昨年中頃よりの鐵價の暴騰に、數年來の身動きも出來ぬ中風病がどうやら治つて、足腰が立ち初めた上に、2月初め棒鋼102圓(製鐵所先物)の相場を聞いて、さては又今年も鐵屋の當り年と捕らぬ狸を極めこんで、温い懷に手を入れて北叟笑んで居たのも束の間、それを絶頂に歐洲鐵價はグングン下るし、金解禁の聲に爲替は上つて、11月にはつるべ落ちの85圓と云ふのだから、メイカーや問屋の青息吐息も無理ではない。

論より證據、メイカーの青息は關稅引上問題となつて、今や猛烈に燃燒中であるし、問屋さんは問屋さんらしく、製品のあらさがしと解約問題に愚痴の數々を並べたてゝゐるではないか。

さるにても常に外國の相場に操られ、彼の一高一低は直ちに我の氣焰となり嘆息となるとは何とみじみな事ではある。が然し事實は事實として、輸入相場が此以上の値下りを示すならば否永く現状に止まるならば、恐らくはふところ具合の冷たさに下痢を起すものも少なくない云ふもの。

そこで主題は歐洲輸出相場は何處まで下るかと置き換へられることもなり、興味を中心、否死活の問題ともなるのである。

然し問題は解く可く餘りに複雑問題である。もとより筆者の淺學と未經験を以つてして到底解決し得る處でもないし、又答へを與へやうなどい、大それた考へは毛頭持つてはゐない、たゞ此の機會に思ひつきし2、3の事實を雜然と並べたてゝ見るだけのこと、之から何を歸納されるかは専ら讀者諸賢の第六感の働きに待つ他はない。

1、世界の鐵價を支配するものは誰か 經濟學は工業に於ては原則として最低生産費が其の價格を決定する。何故ならば其處には所謂收穫遞増の法則が行はれるからだと教へてゐる。若し其が眞理だとするならば、莫大なる資本が固定化され、數萬の職工を養ひ、而も既に過剰な生産力に苦しんでゐる鐵鋼業の如き其の代表的なものでなければならぬ。即ち之を云ひ換れば世界の鐵價を支配するものは最も安價な鐵の生産者であると云ふことになる。然らば此の意味に於ての支配者は誰だらうか、米國か、獨逸か、然らず、其れは實に戦後歐大陸に勃興した佛蘭西、白耳義、ルクセンブルグの新興勢力である。

之等の諸國は他の諸國に比して異常に安い賃銀に恵まれて、驚く可き安價な鐵を現に世界に提供しつゝあるのである。今主要製鐵國の賃銀を下に比較して見ると

	米 國	英 國	獨 逸	佛蘭西	ザール	白及ルク
英國を100とすれば	200	100	75	50	57	45
1週間1人當平均賃銀	192志	66志	50志	33志	38志	30志

製品1噸の生産に對して支拂はれる諸費目の中で賃銀が其の主要な部分を占むることは勿論で、若し原料費としての支出も結局は賃銀に還えられることを考へに入れるならば、鐵石の採掘から製品に至る各生産行程に於て支拂はるゝ賃銀は、恐らく製品の代價の80%を占むるだらう。

斯くして、戦後驚嘆に價する合同運動の斷行に依つて生産費の徹底的低下を企てた獨逸でも佛、白には及ばず、即ち下の如き結果を示してゐる。

棒鋼1噸當り生産費 獨逸 29.40弗(=123麻克) 佛、白 27.10弗(=佛672法—白945法)

のみならず佛、白等の諸國が鐵價の支配者たる所以は他に、も一つ大きな理由がある。それは獨逸の國內市場が包容力大なるに反して、之等の諸國は其の生産の大部分を海外販路に充當せねばならないことだ。最近に於ける統計よ

見ると、佛蘭西は其の 60 %を、白、ルクは實に其の 80—85 %を國外に運んでゐる。

従て海外市況の不味の折には生産を維持する爲に思ひ切つた安値を出しても投資することにもなるのだ。

勿論獨逸も恐るべき投資國の一つたること云ふまでもないが過去數年間の統計よりすると、佛、白が殆んど常に最低の輸出相場を與へ、獨逸が之に曳きづられてゐる形が窺はれる。

更に附加すべきも一つの理由は生産噸數に於ては、遙かに米、獨に劣つてゐる佛蘭西、白耳義が輸出に於ては甚だ重要な役割を演じてゐることである。下に昨年度に於ける鐵鋼の各國輸出量を掲げて見る。

佛蘭西	獨逸	白耳義、ルクセンブルグ	英國	米國
4,870,800T	4,639,200T	4,408,800T	4,261,200T	2,340,000T

とも角も之等の論據より世界の鐵價を支配するものは佛、白、ルクの諸國なりと一應断定して、日本の如き外註値段に左右されてゐる國に住む人は獨逸の外に更に此の新興勢力の動きを研究する必要があるを附言して次に移らう。

2、3 月積先物賣出概況——鋼板凋落

1)、業界のパロメーターたる當所先物賣出の 2、3 月渡に於ける概況が甚だしく振はないのは現在の地場と照合して當然過ぎる程當然である。賣出噸數は殆んど前月と變化はないのに申込は益々貧弱である。

2、3 月積先物賣行概況 單位噸 備考 二種定期ハ含マズ

工場名 先物賣出 噸數	線材	一、二小形	三小形	一中形	二中形	四型鋼	一大形	二、三大形	軌條	計	申込噸數									
											内譯									
											東京	大阪	名古屋	其他						
引受噸數	300	1,500	2,000	400	1,000	1,200	1,000	2,000	—	9,400	總噸數	東京	大阪	名古屋	其他					
先物 之部	條鋼ノ部	丸角鋼	120	—	556	182	—	—	—	—	858	1,153	670	360	10	113				
	鋼鋼山形	—	155	—	76	53	—	—	—	284	335	115	160	—	60					
	平等山形	—	629	—	652	—	—	—	—	1,281	1,352	377	750	15	210					
	不溝工先物計	—	172	208	—	208	333	180	1,057	2,158	2,356	900	1,375	10	71					
	鋼鋼山形	—	—	—	105	46	426	—	287	864	920	430	490	—	—					
	不溝工先物計	—	—	—	—	153	—	1,006	313	1,472	1,52	748	750	—	31					
	鋼鋼山形	—	—	—	—	—	—	75	846	921	920	285	635	—	—					
	不溝工先物計	120	956	764	1,015	460	759	1,261	2,503	7,838	8,565	3,525	4,520	35	485					
	鋼板ノ部										鉄力板ノ部		黒板ノ部		線材ノ部					
	工場名	先物賣出噸數	引受噸數	申込噸數				區品種分	市場向	實需向	賣出噸數	1,500	區分	品種	線材	製釘材				
内譯																				
厚板	700	700	1,398	483	483	265	167	賣出噸數	900	600	申込噸數	1,700	賣出噸數	2,100	3,000					
一中板	500	500	3,547	2,360	880	210	124	申込噸數	900	600	引受噸數	1,500	申込噸數	2,145	3,000					
二中板	700	700	3,409	1,938	1,018	180	273	100lbs	34	200	引受噸數	1,500	引受噸數	2,100	3,000					
先物計	1,900	1,900	8,381	4,781	2,381	655	564	170lbs	523	200	1,500	引受噸數	2,100	3,000						
								Oilsize	29	200										
先物計	1,900	1,900	8,381	4,781	2,381	655	564	計	900	600	1,500	引受噸數	2,100	3,000						
定期ノ部	工場名	線材	一、二小形	三小形	一中形	二中形	四型鋼	一大形	二、三大形	軌條	計	鋼板ノ部	區分工場名	定尺	耳付	計				
	條鋼ノ部	丸角鋼	500	—	3,855	—	694	—	—	—	5,049						厚板	—	5,770	5,770
	鋼鋼山形	—	308	—	105	200	—	—	—	613	一中板						985	—	985	
	平等山形	—	1,131	—	765	—	—	—	—	1,896	二中板						945	930	1,875	
	不溝工定期計	500	1,809	4,582	1,000	1,775	655	1,180	2,313	13,814	計						1,930	6,700	8,630	

2)、先月「桐一葉、秋の哀れ」を謳はれた小形工場は今月も亦見る影もなく凋落し各工場共前月にも増して悲惨なものである。中型工場の内一中のみは未だ餘喘を保つて居るが二中形は市場の趨勢に鑑み僅かに 300 噸の賣出増加

なしたるに拘らず遂に之に追従し得ず豫期に反し先月の半數にも満たなかつた。

3)、實需の反映が、一時姿を消した大形の申込が今月は豫期以上の増加となつた、一部の觀察によれば決して永續性のあるものであるまいと云ふ心細い好調である。

それにも増して眞に市場の先行觀を裏書きしたものは鋼板である、2萬4,000噸の先月の申込でさへ其減少振りに我等を驚嘆せしめたものだが今月は只の8,000何噸と云ふ哀れな數字を見せて呉れた、之が恐らく脅え切つた市場の本音であらう。

11 月下旬線材、薄板、鉄力板、輸入速報

區分\品名	B.W.G. No. 5	線材			薄板		鉄力板	
		其他	計	11月合計	0.7 耗以下	11月合計	11月合計	
神戸	902	—	902	5,136	148	2,874	772	2,111
大阪	1,107	—	1,107	1,589	120	1,697	548	650
横濱	226	1	227	2,292	576	2,076	121	3,462
計	2,235	1,189	2,236	9,017	844	6,647	1,441	6,223

備考 神戸、横濱自 18 日至 27 日 大阪自 17 日至 27 日

東西市況—丸鋼逆轉 工場能率は好期を迎へて益々増進し、消費力は緊縮風に煽られて追々と萎縮する一方、「師走」の聲を耳にした市場は何となく後ろから追ひ立てられる様に感じて稍焦燥り氣味となり一般に手持整理に應じて總賣りとなり買手も殆んど定見なく例年の大節季を1ヶ月早めた様だと云はれる程故、現實以上に荷凭れを感じて前途に對して不安を懷いて居ると云はれて居る。随つて相場も日一日と軟化して流石堅壘を誇つた型物鋼板も最早昔日の佛がなくなつた。

東京市況

丸鋼 細丸は盛んに伸鐵より格安の注文あり、ベース物は賣行益々不振、中丸以上追々と入荷を見る等未だ軟化の氣配不衰、大口物は成行よりも1、20 錢の下値を唱へて居る模様である。

角、平鋼 角は比較的品薄なるも大勢に押されて10 錢揃みの下押しとなつた、平は地方筋の活躍期である秋季が至つて不味だつたので此處へ來て益々荷凭れとなり入荷漸増と相俟つて漸落と云はれて居る。

型鋼 好轉を期待された中型等山 65^m/m は今回になつて入荷氣構へにより再び軟調に轉じ、中型等山は漸く底堅めも濟んだ模様で1月物 87 圓唱へと云はれて居る。大型及不等邊はザリ安、溝形は例の突飛に高いものも目先の入荷豫定に稍落ち付きとなり、其他小浮動あるも一般に此邊と睨まれて居る。工形は漸落不止。

鋼板 16×3×6 は已に軟化し、目星しいものとして2.3×5×10 の15 圓 3、50 錢と不拒變の3.2×5×10 を残す外は南風不競、未だ採算は有利としても追々と他鋼材の渦中に巻き込まれんとして居る。

大阪市況

丸鋼 掃けども掃けども實需の木枯と供給の突風毎に落葉の數を増す下落振りに原價は最早問題とはならない。之は馳て來る春の自然に恵まるゝ用意と樂觀すべきであるがこの冬の寒さはどうしても凌がればなるまい。當所品の出廻り圓滑を熟望されてゐる。

角、平鋼 矢張り小口取引のみにて比較的無難に經過せるも、以下は伸鐵物 8 圓 7.80 錢を稱へられてゐる、平鋼にいたつては伸鐵業者の賣急ぎに一段悪化し且民間製鋼業者の平鋼製作計畫の聲は一層弱氣を増長せしめてゐる。

型鋼 山形鋼中形ものゝ需要割合に良好の様に見られ 9 圓臺割は却つて取引を容易ならしめて居る。大形及び不等邊は區々乍らも建築用として相當の動きを期待せられて居る。山形鋼は表面暴落後の一服とも見られるが未だ先物値段と相當値開もある爲賣腰決らず浮動状態を免れぬ。溝形鋼は慈光の如く現はれた當所品出廻の 2½×6:3×6 は瞬時に消化されて引續き投出さるべき慈光に浴せんものと渴仰せられて居る。

鋼板 16×4×8 は外注品の到着接近に軟調を呈し 4.5 6 /m ものは依然浮動して區々。

線材 極度の需要減退に依然買手なく目下唱値 87 圓である。外注値段もどうやら落付模様と爲替パーと見ても最早や下げ餘地なきため賣手としても今迄通りに成行賣りを見送り居るため、こゝら邊にて落付かとも思はれるれ共何しろ大節季を控へ需要減退の折柄賣買共睨み合の狀態と云はれてゐる。

鉄力板 9、10、11 月と秋は一般商品界の活況を呈する如く鉄力板も相當荷動を豫想されしも一般の購賣力極度に

寸法	丸鋼				鋼				合計	寸法	丸鋼				鋼				合計
	民間向普通鋼				官廳向及規格品並特殊鋼						民間向普通鋼				官廳向及規格品並特殊鋼				
	阪神	京濱	其他	計	阪神	京濱	其他	計		阪神	京濱	其他	計	阪神	京濱	其他	計		
13	—	—	—	—	—	10	10	20	20	12 ^{m/m}	—	—	—	—	—	—	—	—	130
15	—	—	—	—	—	—	14	14	14	13	—	—	—	—	—	—	—	—	1
16	—	—	—	—	—	—	14	14	14	14	70	37	23	130	—	—	—	—	1
17	—	—	—	—	—	—	6	6	6	14	—	—	—	—	—	—	—	—	1
18	—	—	—	—	—	—	6	6	6	13	—	—	—	—	—	—	—	—	1
19	—	—	—	—	—	—	34	34	34	15	—	5	10	15	—	—	—	—	15
20	—	—	—	—	—	2	37	39	39	16	—	15	—	15	—	—	—	—	15
21	—	—	—	—	—	—	8	8	8	19	55	31	10	96	—	—	2	2	98
22	—	—	—	—	—	—	3	3	3	22	115	19	5	139	—	—	2	2	141
23	—	—	—	—	—	—	9	9	9	25	—	21	—	21	—	—	—	—	21
25	—	—	—	—	—	2	—	2	4	28	2	1	—	3	—	1	—	1	4
27	—	—	—	—	—	19	79	98	98	30	6	—	11	17	—	—	—	—	17
28	—	—	—	—	—	7	—	7	7	32	7	—	—	7	—	—	3	3	10
30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33	—	—	—	18	—	—	—	—	8
31	—	—	—	—	—	7	—	7	7	38	13	10	—	23	—	—	—	—	8
32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	—	—	—	—	—	—	—	—	8
34	—	—	—	—	—	3	—	3	3	44	1	—	—	1	—	—	—	—	1
35	—	—	—	—	—	—	—	—	—	46	—	13	—	13	—	—	—	—	1
36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	4	—	—	4	—	—	—	—	1
38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55	—	—	—	19	—	—	2	2	4
40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	65	—	—	—	—	—	—	6	6	6
42	—	—	—	—	—	35	3	38	38	70	10	—	—	10	—	—	—	—	10
44	—	—	—	—	—	—	8	8	8	75	1	—	—	1	—	—	—	—	2
48	—	—	—	—	—	—	5	5	5	80	20	24	—	44	2	—	26	28	72
50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	90	83	—	—	83	99	10	109	192	
55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	79	48	—	127	2	17	9	28	155
60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	120	—	—	—	—	—	—	6	6	6
65	—	—	—	—	—	—	—	—	—	130	—	—	—	—	—	—	—	—	10
70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	135	10	—	—	10	—	—	—	—	10
75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	150	—	—	—	—	—	—	—	—	120
80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	155	6	—	—	6	—	—	—	—	120
85	—	—	—	—	—	—	—	—	—	角鋼計	482	224	96	802	124	117	91	332	1,134
90	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平鋼計	81	74	6	161	—	—	—	—	162
95	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 ^{3/16}	1	1	—	2	—	—	—	—	2
100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 ^{1/2}	41	55	5	101	—	—	3	3	104
110	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 ^{3/8}	—	—	—	—	—	—	2	2	2
115	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 ^{1/4}	130	70	27	227	—	—	—	—	227
120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 ^{1/8}	55	49	21	125	—	—	2	2	127
125	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 ^{3/4}	—	1	—	1	—	—	—	—	1
130	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 ^{1/8}	336	261	30	627	—	—	3	3	630
140	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 ^{1/4}	11	21	10	42	—	—	—	—	42
150	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 ^{1/2}	—	9	—	9	—	—	—	—	9
160	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 ^{1/4}	384	396	106	886	—	—	6	6	892
180	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 ^{1/2}	10	8	1	19	—	—	—	—	19
200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 ^{3/8}	199	65	27	291	—	—	4	4	295
丸鋼計	2,268	2,746	448	5,462	60	286	603	949	6,411	4	425	269	135	829	—	—	10	10	839
平鋼計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	2	2	2
總計	4,551	4,332	935	9,818	184	403	748	1,335	11,135	—	—	—	—	—	—	—	—	—	64

備考 1. 鍛成品を含まず 2. 自家用品は官廳間に含む

當所及二社中型等邊山形鋼 10 月生産高

生産調節申合せに依る當所又日本鋼管、東海鋼業の10月中の生産高は以下の通りて、基準數量に比し約3,500 噸の減産であり。前月に比し更に200 噸の減を示して居る。

50m/m	60m/m	65m/m	70m/m	75m/m	80m/m	90m/m	100m/m	計
1,089	4	2,461	4	1,785	306	704	803	7,156

